数字・データからみる北海道教育大学

－ 北海道の教育を未来につなぐために －

① 社会構造の変化

人口減少と教育環境の変化が進む北海道

18歳人口の推移（北海道）

44,597人（2020年） ➡ 25,331人（2040年） ▲43%（20年間で）

※2020年以降は推計値

学校数の推移

小学校

1,020校（2019年度） ➡ 905校（2025年度） ▲115校（6年間で）

中学校

575校（2019年度） ➡ 530校（2025年度） ▲45校（6年間で）

義務教育学校

6校（2019年度） ➡ 32校（2025年度） ↑26校

児童生徒数の推移（小・中学校）

35.9万人（2019年度） ➡ 32.3万人（2025年度） 約▲3.6万人（約10%減）

北海道には **約500校** のへき地校が存在

（全道の約３割・全国の約２割）

学級数の変化（小・中学校）

通常学級数

31,927学級（2019年度） ➡ 29,274学級（2025年度） 約▲8%

特別支援学級数

5,622学級（2019年度） ➡ 6,572学級（2025年度） 約↑16.8%

人口減少と学校統合（義務教育学校化）が進行
特別支援・へき地教育へのニーズは高い

② 北海道教育大学の特色・実績

北海道教育大学

北海道唯一の国立教員養成大学

５キャンパス

札幌　旭川　釧路　函館　岩見沢

北海道全域を教育フィールドに

学生数

約5,200人（2026年5月1日現在）

全国最大の国立教員養成大学

本務教員数

333人（2026年5月1日現在）

ST比※ 3.8：1

手厚い教育環境

全国トップクラスの教員輩出数

年平均 約520人

全国の教員養成を支える中核的役割

教員就職率（教員養成課程）

72.9％（2025年度卒業者）

カリキュラム改革により水準が向上

※ST比＝入学定員（学部・大学院）／本務教員数

「人が人を育てる」
全国に誇る教員養成への貢献

③ 将来へのキーポイント

北海道の教育を支える拠点大学としての役割

教員の資質向上

北海道では**大学院修了教員**が全国平均より **約600人不足**

小学校 ▲208人
中学校 ▲410人
義務校 ▲17人
合計 ▲約600人
＊令和4年度学校基本調査等

→ 教職大学院の定員充足、学部との接続強化

教育実践力向上CBT*を全国の **86大学へ展開**

＊コンピュータによる教育実習用事前学習・検定ツール（Computer Based Testing & Training）

→ 実践力の高い教員の養成

志願者の獲得

志願者数推移（学部）

約5,900人（2006年度） ➡ 3,470人（2026年度） 約▲40%

→ 志願者ニーズを捉えた入試改革

→ 高大連携事業「みらいの教員育成プログラム」参加者数(2025年度) ↑225人

教員就職率・教職意欲の向上

教員就職率 75.0%（教員養成課程）

ミッション
→ 理論と実践の往還
→ へき地校体験実習の拡大

へき地校体験実習参加者数（2025年度） ↑234人

地域への貢献

→ 地域共創
■新しい学校づくり支援
■地域の児童生徒への学習支援

→ 附属学校
■地域と連携した附属学校
■公立学校への成果の展開

附属学校での授業実践交流数 年平均 287件

これから求められる教員像

- ICTや探究、小・中学校段階双方への対応力
- 多様な子どもたちへの対応力
- へき地・小規模校での実践力
- 地域と連携・協働する力

生涯を通じた教育人材育成のプラットフォーム
進化への根拠となる成果

若手教員向けCBT研修
受講者数 394人（R6年度）

オンライン履修
北海道の地理的特性を踏まえ、現職教員が「現在の生活環境を変えることなく学び続けられる」環境を提供。

生涯を通じ学び続ける人への支援

それぞれの興味関心・社会的課題等に応じた学びの意欲をもつ人々に対して学びの機会を創出し、教育にかかわる様々な人材の全キャリアステージをカバーする。

チャレンジを後押しする学び直し機会の提供

学習機会や就業機会などが生涯にわたって充実した、多様な人生を可能にする社会の実現のため、チャレンジしたい人の学び直し機会を提供する。

実施件数 301件（R7年度）
参加人数 9,105人（〃）

志願者数（募集人員：各年度4人）
38人（R7～8年度）
平均志願倍率：**4.75**倍

受講者数 327人（R7年度）
プロジェクト数 42件（〃）

小中学校教員合計就職者数 全国１位
小学校：**394**人　中学校：**174**人
地方公務員就職者数 全国３位
出典：『大学特集本当に強い大学2026（東洋経済新報社）』

各キャリアに応じた現職教員研修
初任段階・若手教員向けから管理職向けまで、各教員のキャリアに応じた研修プログラムや講座を実施。

高大連携事業 みらいの教員育成プログラム
将来教師という職業に就きたいと考えている高校生に、教職を理解し、そのやりがいを体験できる場を提供することによって、教職への明確なビジョンの形成に寄与。

附属学校 授業実践交流事業
附属学校と公立学校が協働して実践交流を行い、教員の授業力や指導力の向上を図る。

３大学共同の博士後期課程 共同学校教育学専攻
メタバースを活用した高度な研究指導体制で、次世代の教員養成を担う研究者・指導者を育成。

地域プロジェクト
地域で活躍する上で必要な実践的課題解決能力を養うための「地域課題解決型PBL科目」を展開。

スパイラル型教育 往還カリキュラム
1年次から4年次まで、学校現場での「実践」と大学での「省察・理論」を繰り返すことで、即戦力の高い専門性を養う。

国立大学法人 北海道教育大学 HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

導入

研鑽 **生涯を通じた教育人材育成のプラットフォーム**

養成

総合型選抜 北海道みらいの教員養成枠
学校教員を目指して学んできた学習や活動を評価する総合型選抜による入試を新たに導入する。

教育実習前後の学習支援ツール 教育実践力向上CBT
コンピュータによる事前学習・検定ツールを開発し、学生の学びを支援するとともに、全国の大学への展開を通じ教育の質向上に寄与。

CBT利用申込大学数 86大学

へき地校体験実習
へき地の学校で実習・体験活動を行い、へき地教育への理解を深めるとともに、教職意欲の向上を図る。

実習参加者数 234人（R7年度）
協力校数 104校（〃）

学ぶ・成長する意欲の醸成
大学の研究・学習の成果を広く地域社会、とりわけ地域の子どもたちへと開放し、もって学びや成長に対する意欲の醸成に繋げる。

まなびプロジェクト
大学の高度かつ専門的な教育研究機能の一端を地域社会・地域の子どもたちに開放する。

あそびプロジェクト
音楽・美術・スポーツの原点である「あそび」をテーマに学べる大学・地域が一体となったプロジェクトを実施する。

教職意欲の醸成
教師を目指したいと考えている子どもたちの気持ちに応え、大学入学前から教師になるための素養を高める取組を展開し、更なる意欲の向上を図る。

対面参加者数 225人（R7年度）
参加校数 29校（〃）

質の高い教育人材の育成
子どもの学びと成長を支える質の高い人材の養成と、地域社会を共に創る人材の育成を担い、地域の未来に貢献する。

ソーシャルクリニック
自治体と密接に連携し、教育の専門性を用いて地域の多様な課題に解決を促す。

臨床的研究プロジェクト
現代的な教育課題の解決に組織的に取り組み、地域の教育力向上に貢献する。

大学発ベンチャー等設立
大学発ベンチャーやNPO法人の設立から、芸術・スポーツ文化活動の支援・機会提供、環境整備を通じ、大学の研究成果を地域に還元する。

地域との連携
地方公共団体や企業等と協定等を結び、地域の多様な主体と連携した取組を効果的に展開する。

大学の資源を活用した地域社会への貢献
大学が持つ知見や教育研究リソースを生かし、地域振興や地域課題の解決に寄与する。